



令和7年の労働災害
ー11月末現在ー

死亡者数 **8** 人
死傷者数 **423**人

第14次 **3**年目
労働災害防止計画

目 死亡者数 5人以下
標 死傷者数465人以下

この通信は誰もが安全で健康に働く十勝を実現するため、各会社の安全衛生などの取組を発表していただき、地域の皆様の安全衛生の意識向上を図り、労働災害減少を目指すものです。

冬季災害に気をつけましょう。～冬本番です～

いよいよ冬本番です。冬季特有の労働災害防止に取り組みましょう。

<気象情報の情報入手>

- 1 冬は天気によって、作業時の災害リスクが変わります。
いち早く**気象情報**を確認しましょう。
- 2 気象情報から**適切な作業計画**を立てましょう。



<除雪作業時の労働災害防止>



屋根の雪下ろしは**墜落防止**対策を、重機の除雪では**立入禁止**を徹底しましょう。

ストップ・ザ・雪下ろし災害！
～屋根の雪下ろし作業を安全に行うために～

STOP! STOP! 労働災害

ストップ・ザ・雪下ろし災害！
北海道労働局 HP▶



<転倒防止>

路面の変化、寒さで体の柔軟性が失われるなどで転倒災害が発生しやすく、その対策を。

こんな場所是要注意！

- 凍結路面
- 再凍結した場所
- 除雪機械等が通過した直後のつるつる路面
- 交差点の手前（横断歩道）
- 薄っすらと雪が積もった道路
- 屋外階段



<交通労働災害防止>

- 路面状況（圧雪、アイスバーン）
- 天候（吹雪、濃霧等）
- 早めの行動、交通ヒヤリマップの作成と周知
- 十分な車間距離、早めのブレーキ

<その他>

ヒートショックが発生しやすく、入浴時など高齢者は特に気をつけましょう。

掲示板

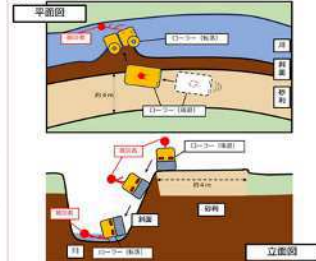
十勝から死亡労働災害をなくしましょう

令和7年8月、十勝管内土木工事現場において、**帯広市建設局の転落による死亡労働災害**が発生しました。

令和6年に都道府県労働基準監督署管内で発生した死亡労働災害が6件（内、建設2件）であるところ、令和7年に発生した死亡労働災害は既に6件（内、建設2件）となっており、死亡労働災害の減減が急務となっています。

災害概要

被災者は、乗降のローラーを通過し、溝幅約4メートルの砂利道の転落作業を行っていたところ、砂利道の縁からローラーごと転落し、約3.4メートルの高さから落下したとのことです。



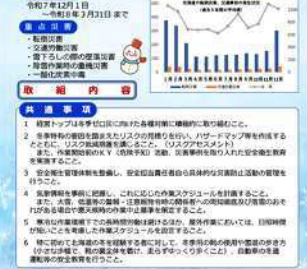
厚生労働省・北海道労働局・南広労働基準監督署
〒000-0016 札幌市東区東7丁目3 北海道労働局庁舎
TEL 011-233 5711・244 (保安課担当)

北海道冬季ゼロ災害運動

～冬季特有の労働災害を防止しよう～

冬季の北海道では、道路凍結等による転倒、自動車のスリップや労働者の転倒などによる労働災害、建設現場における凍結や凍結防止対策の不徹底、屋内での凍結防止対策の不徹底などによる労働災害の発生が懸念されています。このため、労働災害の発生を防止するため、事業者と労働者が一丸となって取り組むを行う具体的な事項を提唱し、冬季ゼロ災害運動を推進するものです。

労働者が参加して「北海道冬季ゼロ災害運動」に取り組ましましょう。



冬季の労働災害防止について
北海道労働局 HP▶



SAFEコンソーシアム



関連：SAFEアワード

無災害表彰制度

- “災害ゼロ”の目標、改めて意識してみませんか？
- 積み重ねの結果



長く働くために。～治療と仕事の両立支援事業～

治療と仕事を両立させられると企業は継続的な人材確保、労働者の安心感やモチベーションの向上による生産性の向上などの効果が見込まれます。健康確保対策は会社の義務です、無料の講習（WEB）がありますので、紹介します。



▼こちらをチェック



帯広労働基準監督署・帯広労働基準協会

北海道最低賃金

令和7年10月4日改定

時間額

1075円

事業所名 : 株式会社 伊豆倉組
地域 : 本社（帯広市）
業界・業種 : 建設業 従業員： 37名

株式会社伊豆倉組
Izukuragumi Co., Ltd.

伊豆倉組における労働災害発生防止に向けた取り組み

当社は労働災害発生ゼロを目標とし、無災害継続中です。
労働災害ゼロを達成すべく下記の取り組みを実施しているので紹介します。

本社での取り組み

例年、工事開始時期に先立つ概ね5月に無事故・無災害を達成するために伊豆倉組及び協力業者参加による『安全衛生大会』を開催しています。

災害防止に向けて現場での基本的なルールを確認し、現場担当者や協力業者の連携を深めるとともに適切な労働をするための健康維持を図るため（株）まつもと薬局様を講師に迎え健康セミナーを行いました。災害発生時に対応するためとかち広域消防事務組合様を講師に迎え救急救命訓練を実施しています。

また、毎月2回全現場において安全パトロールを実施し、担当役員をはじめとする関係者が現場状況を把握し事故防止に向けた意見を集約しています。

多方面からの意見を求めるため上記とは違う機会（不定期）において協力会との合同パトロール、安全コンサルタントや女性職員による新視点でのパトロールも開催しています。



工事現場での取り組み

ICT（情報通信技術）を搭載した重機等（バックホウ、ブルドーザー等）を積極的に活用し機械と作業員が同時に作業する時間を低減させることにより労働災害の発生を防いでいます。

また、工事現場内において気象予測システムを設置し、雨量や風速を把握し、各人のパソコンやスマートフォンと連動させ作業の安全を図っています。

安全面においても現場単位における危険個所の状況が異なるため、工事開始前にVR安全教育を行う事で発生する可能性のあるトラブルについて、事前に疑似体験させ作業従事者の危険認知と安全意識の向上を図っています。



事務局からのコメント

専門性の高い外部講師を迎えた健康セミナーや救急救命訓練、また、VR安全教育といった体験を通して労働者の危険認識を高めており、労働者の安全衛生意識の向上を工夫されています。